

防災減災学術連携委員会（第24期・第10回）

議事要旨

日 時：令和2年3月3日（木）10:00～11:55

会 場：日本学術会議 2階大会議室

出席者： 米田雅子委員長、田村和夫幹事、植松光夫委員(Skype)、畝本恭子委員、木村学委員、小池俊雄委員(Skype)、寶馨委員(Skype)、武内和彦委員、中村尚委員、平田直委員、森口祐一委員、安村誠司委員、山本あい子委員(Skype)、依田照彦委員、和田章委員（15名）

欠席者： 三木浩一副委員長、目黒公郎幹事、大西隆委員、斉藤大樹委員、吉原直樹委員（5名）

事務局： 高谷剛審議専門職

議 題：

- 1) 公開シンポジウム「令和元年台風第19号に関する緊急報告会」12/24(火)について（報告）
- 2) 公開シンポジウム「低頻度巨大災害を考える」3/18(水)について
- 3) 「第3回防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」7/15(水)について
- 4) 2021年東日本大震災10周年事業について
- 5) その他

配付資料

- 資料1 公開シンポジウム「令和元年台風第19号に関する緊急報告会」のちらし
- 資料2 公開シンポジウム「令和元年台風第19号に関する緊急報告会」に関する、シンポジウム等の概要について（事後報告）
- 資料3 公開シンポジウム「低頻度巨大災害を考える」のちらし
- 資料4 第三回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」（仮案）
テーマ：激化する気象災害への備え
- 資料5 日本学術会議主催学術フォーラム・第10回防災学術連携シンポジウム（案）
「東日本大震災からの十年とこれから～58学会と防災学術連携体の活動」（仮案）
- 資料6 ぼうさいこくたい2020への応募計画案
- 参考1 防災減災学術連携委員会（第24期・第7回）議事要旨
- 参考2 第25回日本災害医学会総会・学術集会 主要プログラム
- 参考3 地球惑星科学連合大会 パブリックセッションへの参加

議 事：

議事に先立ち、米田委員長より、本日の本委員会会場が、新型コロナウイルスの流行に伴い、スペースの大きい日本学術会議 2 階大会議室で開催することに変更された旨の話があった。

また、第 24 期・第 7 回の委員会開催の後、シンポジウム開催（2 回分）に関する承認がメール審議により 2 回開催され、本日の委員会が第 24 期・第 10 回の防災減災学術連携委員会になることが、田村幹事より報告された。（参考 1 の資料に添付された、第 24 期・第 7 回委員会の議事要旨（承認済）を参照）

1) 公開シンポジウム「令和元年台風第 19 号に関する緊急報告会」について

・田村幹事より資料 1、資料 2 に基づきシンポジウム開催の報告があった。日本学術会議の講堂での講演の他に、日本学術会議 2 階の大会議室と、大阪会場である常翔ホールをサテライト会場として、インターネットでの同時中継が行われ、合わせて 720 名の参加があったことが報告された。

・米田委員長より、土木学会のご協力によりプロによる撮影が行われ、成功したことの追加説明があった。

・これに関連して、現在の日本学術会議には、インターネット配信に関わる専門の技術者もおらずインターネットの回線が細いなど環境がよくないことが多くの委員より指摘され、今後インターネット環境を改善していくべきであるとの意見が示された。関連して以下の意見があった。

- ・従来のテレビ会議では音質も悪く、臨場感に欠ける。
- ・イベントがある時に外注とする方法もある。
- ・費用をほとんどかけずに、ZOOM 等のシステムを使う方法も有効である。
- ・情報処理学会ではテレビ会議での学会開催を成功させた。他の学会でも試行される予定がある。

2) 公開シンポジウム「低頻度巨大災害を考える」について（資料 3）

・米田委員長より、新型コロナウイルスの感染が広まっている問題があるが、現時点では本シンポジウムを開催する予定であり、中止する必要がある場合は開催の 10 日前にメール審議をすとの話があった。また、大人数に対応するために日本学術会議の 2 階大会議室での同時中継と、インターネットによる配信（YouTube による）を計画していることが伝えられた。

これに対し、以下に示す様々な議論があった。

- ・新型コロナウイルスの患者が今後増える中での開催は微妙ではないか。
- ・開催は慎重にすべきである。
- ・延期してはどうか。

- ・ 日常業務があって参加できない人も多いので、後日内容が分かるとよい。
 - ⇒ 従来のシンポジウムでも動画を保存していたケースはある。
 - 従来も大部分のスライド資料はホームページから閲覧可能にしている。
- ・ 同時中継だけでなく、記録が残されるのがよい。
- ・ 登壇者の感染リスクについても配慮すべきである。
- ・ 無聴衆で開催するのがよいのではないか。
- ・ 早めに無聴衆にする決断をして準備すべきである。
- ・ ビデオレターも活用するとよい。
- ・ 粛々に行えばよい。
- ・ 無聴衆で開催するのがよい。
- ・ ピンチをチャンスに変え、YouTube での配信を中心に成功させたらどうか。
- ・ 大勢の聴衆が参加する場合には、密閉された空間の問題もある。
- ・ 日本学術会議における感染症の専門家の意見も聞きたい。
- ・ 危機管理として、正しい判断をすべき。
- ・ 極力少ない人数で開催するのがよい。
- ・ 災害時に（人々が）いやだと思ふことはさけるべき。
- ・ リアルタイムで放映することにこだわらなくてもよい。
- ・ 聴衆からの質問に対しては後で講演者に回答してもらうこともできる。
- ・ 参加希望者に事前に質問を聞いておくこともよいのではないか。
- ・ フォローアップすることが重要。スライド中心でよいのではないか。
- ・ なお、山本委員より、関係資料として WHO から 2 月 14 日に出された「**Key planning recommendations for Mass Gatherings in the context of the current COVID-19 outbreak**」が提示された。
- ・ 以上の議論を経て、最終的に賛成意見の多かった無聴衆での開催とし、インターネットでの配信、およびスライドのホームページ掲載を行うこととなった。またビデオレターも場合によっては活用することとし、今後に向けては ZOOM 等を用いたインターネット活用の会議システムも検討していくこととした。

3) 「第 3 回防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」について

- ・ 依田委員より、資料 4 に基づき、気象災害にテーマを絞った連絡会とする案について説明があった。
- ・ 米田委員長より、テーマを絞りすぎると府省庁の参加者が限られるので、ある程度広いテーマ案にしている旨の補足があった。
- ・ 本案に対して温暖化のキーワードがあるとよいこと、水災害も含めたものがよいとの意見があったが、基本的に原案のテーマ案のままで進めることになった。
- ・ この連絡会は防災減災学術連携委員会として開催されることの確認があった。

4) 2021年東日本大震災10周年事業について

・和田委員より、資料5に基づき、東日本大震災10周年の行事として、2021年1月にシンポジウムを開催し、日本学術会議のメンバーや防災学術連携体の構成学会から、震災後の活動を振り返り、今後の方針を發表していただくことの提案が説明された。また、各学会や先生方からの寄稿を集めた「東日本大震災十周年「防災学術連携体と58学会の記録」」を冊子として配布することの計画案が示された。

・上記の開催日程としては、多くの催しがあると思われる2020年3月を避けて、大学関係者の都合や開催会場の状況も勘案して2020年1月7日(木)、8日(金)、14日(木)を候補日としていることも示された。

・これに対して、以下の議論があった。

・原発事故をどう扱うかははっきりしておくべきである。日本学術会議としてどの程度踏み込むのか。

・日本学術会議の分科会で東日本大震災のアーカイブをつくっている。このような記録や発表も加えるとよい。

・自然災害を中心として扱うが、原子力の位置づけもわかるようにしておきたい。

・以上の議論を踏まえ、本シンポジウムの計画案の中に「原子力」のキーワードを入れて位置づけることとなった。

・本シンポジウムの開催日程については、会場の都合も確認した上で、前掲の候補日の中から、58学会や本委員会委員へのアンケートをとって決める予定であることが確認された。

5) ぼうさいこくたい2020への応募計画案について

・田村幹事より、資料6に基づき、2020年10月3日、4日に広島で開催される防災推進国民大会(ぼうさいこくたい2020)への応募計画案の説明があった。本年の開催は前年までより早めであり、参加の募集は4月に始まり、5月が提出期限となる見込みである。また、全体のテーマは「自助」、「共助」、「公助」に関するとの情報がある。

・今回の応募計画案では、ぼうさいこくたいのセッションに応募することとしている。テーマの仮案を「あなたのまちの安全性と防災への備えー学术界からの発信ー」としており、都市や市街地の成立過程を踏まえて、そこに潜む多様な危険性を各分野の専門家が指摘し、それらに対する備えを発信することとしている。

・関連して、小池委員より、国際展開の課題別委員会でも小規模セッションに応募することを考えているとの情報があった。

・基本的に本応募計画案で進めることが了承された。今後ぼうさいこくたい事務局からの募集内容を受けて、具体的な応募案をまとめていくこととし、応募については米田委員長に一任することとなった。

6) その他

・和田委員より、参考2，参考3の資料を用いて、防災学術連携体の構成学会同士の交流が進められていることの報告があり、このような具体的な連携活動が今後さらに進むとよい、との話があった。

以上